

(增 補 版)

文學博士小柳司氣太著

新修漢和太字典

東京 博文館藏版

複製

[illegible]

株式會社
博文館

新修漢和大字典

(增補版) 奥附

著者 小柳 司 氣 太

發行者
株式會社
博文館

東京市日本橋區本町三丁目九番地三
株式會社 博文
右代表者

政

大橋進一

印刷者 大橋光吉

東京市小石川區久堅町百八番地
大橋光

印刷所 共同印刷株式會社

小心
んりつしんべ

おつねう
けいさん
にんべん
にんねう
はちがしら
まきがまへ
けいがまへ
わかんむり
にする
りつたう
ちから
つつみがま
へ
はこがまへ
かくしがま
へ
ふしづくり
がんだれ
くちへん

くがまへん
つちへん
どへん
するねう
をんなへん
こへん
うかんわり
しかばね
わりかばかん
やまへん
はばへん
さんべん
まだれ
いんねう
さうかう
くさかんわり
ゆみへん
けいがしら
さんつくり
ぎやうじん
べん

水　さんずゐ
犬　けものへん
邑　おほざと
　　(右)
阜　こざとへん
　　(左)
心　したごころ
　　(左)
　　さかんむり
　　しねう
欠　えだねう
　　ほくねう
　　ぶんねう
　　とます
　　をのつくり
　　かたへん
　　にちへん
　　ひへん
　　ひらび
　　つきへん
肉　にくづき

老	示	玉	牛		火	水		
あみがしら	しめすへん	たまへん	うしへん	きはへん	れんぐわ れつくわ	したみづ	ひへん	さめへん
おいかなむ					さうねう つめかんむり			がつへん
				かたへん	しやうへん		きがまへ	はこつくり るまた

たへん
やまびたれ
はつがしら
けがは
さら
めへん
あみがしら
あみがしら
ほこへん
やへん
いしへん
しめすへん
のぎへん
あなかんむり
たつへん
がつへん

こめへん
いとへん
ほさぎへん
あみがしら
ひつじへん
おいかんむり
すきへん
らいすき
みみへん
ふでつくり
したへん
ふねへん
くさかんむり
さうかう
とらんむり
ざらがしら
むしへん
ゆきがまへ
ころもへん

まめへん
るのこへん
むじなへん
かひへん
こがひ
そうねう
あしへん
みへん
くるまへん
しんねう
おほざこ
ごりへん
ひよみのとり
のごめへん
さじへん
かねへん
もんがまへ
かどがまへ
こざへん

かはへん
つくりがは
なめしがは
おほがひ
しよくへん
うまへん
ほねへん
かみかんむり
かみがしら
たらがまへ
たなかひがまへ
かなへ
きねう
うをへん
ざりへん
ほくねう
あさかんむり
はなへん
はへん

増補版自序

本書の發刊以來僅に四年なるも、幸に好評を博して、類書中の白眉と稱せらるるに至る。然れども日新の現代は、徒に舊撰に満足することを許さず、故に今回之を増補すること左の如し。

第一、字訓及び熟語の増加。

第二、同訓異義の説明、及び助字の用法。

第三、名乗の添附。

かくして約百頁を増したるも、定價は従前と異らず。是れ實に社會の熱心なる要求に酬ゆる所以にして、抑も亦文運の發展に後れざるの微意に外ならず。茲に所思を述べて、本版の序となす。

昭和十一年一月

著者 識

自序

晩近漢和字典の類世に出づる者、前後數十種の多きに上り、余もまた這種の拙著を公にしたこともある。然しながら日進月歩の時勢は、從來の舊著に満足すべからず。故に更に本書を選びて、之が要求に應ずることとした。

明治維新の教育制度改革は、固より必要なことであるが、其の餘弊もまた少からず。漢字排斥の如きは其の一つである。彼等は漢字の國字たるを知らず。唯だ漢字に關する二三の困難な點を捕へ來つて、以爲へらく、教育を阻害するものは漢字である。若し之を廢止すれば、我國の文化は一躍して、歐米と比肩することを得べし。數千萬圓の教育費をも削減することを得べしと。短見者流、一唱百和。彼等は如此にして我國の歴史も文化も古典も、自然に忘却せられ、換言すれば我國固有の思想を破壊する結果を將來することを知らない。今日危險思想の流行も、此の歐米本

位的教育の流毒に本づく所少からざるは、識者の是認する所である。何となれば此くの如く教育せられた青年は、外國の書物に親み、之を理解するの學力あるも、自國語は自づと之を輕蔑し度外視するに至るからである。

「スメラミコト」と言はないで、「テンワウ」といひ、「イツクシキノリ」と言はないで、「ケンバフ」といふ。既に「テンワウ」また「ケンバフ」といふ時は、天皇また憲法の漢字、決して除外すべからず。されば國語の書き方を改めて全然假名又は羅馬字となす時は、意味殆んど通せず。之を避くるためには、其の傍に漢字を併記しなければならぬ。現行の振假名に對して、之を振漢字といふ。是れ簡單明瞭を求めて却つて繁瑣複雑を來すものではあるまいか。又漢字の知識すでに乏しきを以て、適當なる語彙あるにも拘はらず、外國語の濫用を生ず。我國人ほど外國語を使用する者は世界の文明國にも稀なことで、日日の新聞を見れば、そのいかに太甚しきかを知ることが出来る。是れ國語の純粹を破壊するものではあるまいか。

かく論じ來れば、漢字の排斥すべからざることは、自ら明白にして、随つて本書の出版の偶然ならざることも、また理解せらるるであらう。尙ほ本書の材料蒐集と校訂とに關して、山内計作君は二十餘年の間、全力を傾倒せられ、草書には、小野鍾山君は、特に新たに原字を作り、博文館また印刷と装釘とに努力を惜まず。余は此の三氏に對して甚深の謝意を表す。

昭和七年一月

文學博士 小柳 司 氣 太 識

凡 例

一 本書は、現代普通教育に必要な漢字一萬八百有餘を選んで、詳密適切な解釋を施し、且つ之に關聯する故事・熟語・成句・人名・書名・地名等を輯録し、口語體で簡明的確な説明を加へたから、漢字字典たるのみならず、故事成語字典・人名字典・地名字典等を兼ねたものである。

一 本書に輯録した文字の形體排列等は、主として康熙字典に準據したが、其の現代に使用せられぬ死字・廢字の如きは之を刪除し、今日、新聞・雜誌等に使用せらるるものは、其の俗字たると略字たるとを問はず、悉く之を網羅し、力めて現代の實用に遺憾なからしめんことを期した。

一 我が國で製作した文字で、今日尙は使用せらるるものは、母字の下に國字の二字を以て之を標示し、且つ其の意義を解釋し、漢字にして特に我が國で訓を附したものは、【國訓】の二字を標記して之を區別した。

一 一字が數音に分るるものは、㊦㊧㊨の符號を付して之を區別した。但し今日使用せられぬ字音は、往々之を省略したものがあつた。これは本書が専ら實用を主眼としたからである。

一 韻字は□で圍み、其の四隅に圈發を付して四聲の別を明らかにした。即ち□は平聲、□は上聲、□は去聲、□は入聲である。されど本書はもと實用を主眼としたので、韻字は往々簡略に従つた。

一 字音・韻字の異なるに従ひ、訓義の異なるものは、㊦㊧㊨等の符を用ゐて、字音の㊦㊧㊨㊩と對照し

て音義の關係を示した。

一 字解は始めに和訓を示し、ゴヂツクで之を明瞭にし、次に本義を解き、更に熟語の一斑を示して轉義に及び、終りに其の出典を掲げた。例へば四九五頁

【役】

エキ
ヤク

【陌】

の條下に、

①エダチ。君主又政府などに徵發せられて軍隊に入ること。「賦」・「戌」轉じて使用の意。「使」

【孟子】 小徳—ニ大徳—

とあるが如し。此處の—符は、役の字を代表したものである。他は之に準ず。

一 支那の俗語は(俗)符を以て之を表した。

一 熟語は頭字排列法により、概ね字數の少いものから順次排列し、同字數のものは字畫の少いものから、次第に多きものに及ぼし、同字數・同字畫のものは、五十音順に排列し、返りて讀むべきものは、最後に舉げて檢索の便を圖つた。例へば九二頁の【位】の如し。

【位】

キ

【實】

【位署】・【位勳】・【位卑言高】・【攝位】・【位極ニ人臣】・【位不期驕】

一 熟語・成語等で同一の語を冠するものは、直ちに同一の語の條下に列記した。例へば三四一頁

【天】

テン

【先】

の條下に、

【天匠】・【天守】・【天色】の次に【天地】とあり。此の場合、【天地】を冠する熟語は皆【天地】の次に挙げた。

即ち〔天地〕・〔天地壽〕・〔天地一大戲場〕・〔天地無三全功〕・〔奪三天地造化〕・〔天地爲三鑪造化爲三工〕の如きがそれである。

一 同一語で二種以上の意義を有するものは、①②③④の符號を以て、之を區別することにした。

一 熟語の條下に引用した詩文中、其の熟語と同字なるものは、――符を用ゐる、三字以上の成句・名詞等は長き單線――を用ゐて之を代表した。

一 ある熟語と同一又は類似の意義を有する類語は、○符を用ゐて其の條下に記し、且つ稍々讀み難いものには、往往假名を附して其の音を示した。例へば

【内裏】リイ 天子の宮殿。○禁中・禁闕ケン・宮闕・内裡。

一 引例出典は最も古くて正確なものを採るを原則とした。されど小學・十八史略・文章軌範等の如き流布本中より取つたものも亦頗る多い。特に引例中解し難い語句には、註釋を施して初學者の便に資した。而して其の引例の文句が、熟語の解釋にさまで重要でないものは、唯書名だけ掲げて往往文句を省略した。

一 本書は經史子集に出てゐる漢字を網羅すると共に、從來の字典に閑却せられた我が國の六國史・軍記物語等の如き國書をも參酌した。其の書名は略記せざるを原則としたが、往往之を略記したものもある。

【書紀】は日本書紀、【後紀】は日本後紀、【續紀】は續日本書紀、【續後紀】は續日本後紀、【盛衰記】は源平盛衰記、【平家】は平家物語、【保元】は保元物語、【平治】は平治物語、【左傳】は左氏傳の略である。

一 本書に用ゐた略語は左の如し。

(倫) 倫理學 (哲) 哲學 (心) 心理學 (佛) 佛經 (動) 動物學 (植) 植物學 (生) 生理學

(數) 數學 (理) 物理學 (化) 化學

— 扁旁冠脚の知り難い文字を検出する爲に、卷首に檢字を付したる以外、卷末に精密な音訓索引を添へたれば、容易に所要の文字を検索し得るであらう。

— 檢字は總畫順によつて大別し、更に部首順によつて排列し、其の條下に頁数を註記した。

— 畫数を誤算する虞ある文字、例へば臣・異などの如きは特に兩方に並記した。

— 音訓索引は、音は片假名、訓は平假名を用ゐる、すべて發音のままを五十音順に排列した。例へばケウ・キヤウ・キヨウは、何れもキヨウの部に入れたるが如し。

— 扁旁冠脚何れの部首に屬するかを辨じ難い文字は、何れの部門にも之を出して檢索の便を圖つた。例へば幸は千部五畫に屬するが、十部六畫にも、土部五畫にも出し、相は目部四畫に屬するが、木部五畫にも出した類がこれである。

— 草書及び禮器・樂器・冠服等の圖は、各々字解の下或は熟語の下に記載した。これも普通の字書と異なる所である。

部首索引

二 乙ノ、一

一
四〇
四四
四七
五〇
五七
五八
六八
七三
一三四
一四二
一四八
一五九
二六一

又ム广ト十口口匕勺力刀口凡

一六四
一六八
一六九
一七二
一九四
二〇五
二〇七
二〇九
二一一
二一二
二二四
二二五
二二九
二三三
二三五

《山中尸尤小一寸六子女大夕及久士士口口

兀允

三三九
二八九
三〇一
三三四
三三七
三三七
三三八
三三三
三三九
三三八
四二一
四二七
四二二
四二三
四三〇
四三一
四三二

卩 ㄅ ㄆ ㄇ ㄋ ㄌ ㄍ ㄖ ㄗ ㄘ ㄙ ㄚ ㄛ ㄜ ㄝ ㄞ ㄟ ㄠ ㄡ ㄢ ㄣ ㄤ ㄥ ㄦ ㄧ ㄨ ㄩ ㄣ ㄤ ㄦ ㄧ ㄨ ㄩ

[illegible]

欠木月日日无方斤斗文支支手戶戈心

父 子 小

二六〇六
五〇九
五四四
五七一
三
六二六
六二七
六四三
六四六
六四八
六五四
六六一
六六一
六八九
六九五
七〇四
七六九

犬牛牙片月爻父爪火水气氏毛比毋爰歹止

才 牛 石 米 沙 夕

七五
七八三
七八八
七九三
七九四
七九六
七九八
八〇〇
八〇一
八九〇
九二五
九二七
九二八
九二八
九二九
九三
九三一
九三八

定田用生甘瓦瓜玉玄 五 定十月老同死求王

王玄

王不元死於四月

九四
一〇六
一二三
一二六
一二八
二二七
二二九
二四一
二四四
九四二
九四三
九六一
九六二
九六四
九六五
九六八
九六九
九七九

檢字

一 畫

一 一 〇 〇 〇 乙 〇

二 畫

二 二 六 人 几 入 一 四
八 八 一 〇 一 六 一 六 一 六
口 九 六 刀 二 七 力 四 一 〇
匕 七 〇 〇 二 二 二 二 二 二
尸 三 三 厂 三 三 又 三 三 丁 三
七 七 一 父 四 乃 四 九 五 了 五
刁 一 三

三 畫

口 九 二 〇 土 一 〇 士 四 三 久 七 三
父 七 三 夕 八 三 大 三 三 女 九 三 子 八 七
山 六 六 寸 一 四 小 七 四 尤 二 三 尸 三 三
巾 〇 〇 干 〇 〇 么 〇 〇 广 七 六 互 八 七
中 〇 〇 山 一 〇 〇 工 五 〇 〇 己 九 〇 〇
井 九 七 弋 一 〇 弓 一 〇 丑 〇 〇 多 一 〇 〇
彳 四 〇 万 一 六 丈 一 六 三 一 六 上 二 五
下 二 〇 个 〇 〇 丫 〇 〇 丸 〇 〇 久 〇 〇
乞 五 五 也 五 五 于 〇 〇 亡 六 八 兀 一 三
亼 二 四 凡 八 六 九 八 六 刃 三 七 双 三 七
勺 五 〇 勺 五 〇 千 四 二 廿 七 二 又 五 三
子 九 七 子 九 七 川 三 四 已 九 〇 已 九 〇
卜 一 五 才 五 七 才 五 七 彳 〇 〇 彳 〇 〇
卩 二 四 卩 二 四

四 畫

心 九 五 戈 四 五 戶 一 七 手 四 七 支 六 三
支 七 六 父 七 六 文 二 六 斗 七 六 斤 八 六
方 四 六 无 一 六 日 一 六 日 九 六 月 五 六
木 七 〇 欠 九 七 止 七 七 歹 三 七 爻 九 六
母 三 七 母 三 七 比 七 九 毛 六 七 氏 七 九
气 〇 〇 水 一 〇 火 〇 〇 爪 一 〇 爪 一 〇
父 七 九 爻 八 九 月 八 九 片 九 九 牙 一 九
牛 一 九 犬 八 九 王 六 九 王 六 九 月 九 二
卅 四 二 卅 四 二 不 三 二 丐 三 二 丑 三 二
与 三 六 中 四 〇 丰 四 四 丹 四 四 之 四 八
予 五 七 云 六 二 互 六 二 五 六 二 井 六 七
亢 六 九 什 七 七 仁 七 七 灰 七 七 仆 七 七
仇 七 七 仇 七 七 今 七 九 介 七 九 仍 八 〇

从_{一〇} 仙_{一〇} 允_{一三} 元_{一三} 內_{一四}

公_{一五} 六_{一五} 兮_{一五} 毋_{一六} 冗_{一六}

尢_{一六} 凶_{一六} 办_{一七} 分_{一七} 切_{一七}

刈_{一七} 勻_{一七} 勾_{一七} 勿_{一七} 夂_{一七}

勾_{一七} 化_{一七} 匹_{一七} 卅_{一七} 孕_{一七}

升_{一七} 午_{一七} 卞_{一七} 卬_{一七} 厄_{一七}

及_{一七} 友_{一七} 反_{一七} 双_{一七} 収_{一七}

壬_{一七} 天_{一七} 太_{一七} 夫_{一七} 夬_{一七}

夭_{一七} 孔_{一七} 少_{一七} 尤_{一七} 尹_{一七}

尺_{一七} 屯_{一七} 虫_{一七} 巴_{一七} 市_{一七}

市_{一七} 幻_{一七} 廿_{一七} 式_{一七} 弔_{一七}

引_{一七} 戶_{一七} 扎_{一七} 无_{一七}

五畫

玄_{一七} 玉_{一七} 瓜_{一七} 瓦_{一七} 甘_{一七}

生_{一八} 用_{一八} 田_{一八} 疋_{一八} 疒_{一八}

𠂔_{一八} 白_{一八} 皮_{一八} 皿_{一八} 目_{一八}

矛_{一八} 矢_{一八} 石_{一八} 示_{一八} 內_{一八}

禾_{一八} 穴_{一八} 立_{一八} 𠂔_{一八} 𠂔_{一八}

且_{一八} 丕_{一八} 世_{一八} 世_{一八} 丘_{一八}

丙_{一八} 𠂔_{一八} 主_{一八} 井_{一八} 乍_{一八}

乎_{一八} 乏_{一八} 仔_{一八} 仕_{一八} 合_{一八}

仗_{一八} 付_{一八} 仙_{一八} 仝_{一八} 仝_{一八}

代_{一八} 令_{一八} 以_{一八} 兄_{一八} 充_{一八}

全_{一八} 𠂔_{一八} 冉_{一八} 册_{一八} 册_{一八}

冬_{一八} 𠂔_{一八} 風_{一八} 凸_{一八} 凹_{一八}

𠂔_{一八} 出_{一八} 刊_{一八} 刊_{一八} 功_{一八}

加_{一八} 勾_{一八} 勾_{一八} 包_{一八} 勿_{一八}

北_{一八} 匜_{一八} 匜_{一八} 𠂔_{一八} 𠂔_{一八}

𠂔_{一九} 占_{一九} 卬_{一九} 卮_{一九} 卯_{一九}

𠂔_{一九} 去_{一九} 古_{一九} 句_{一九} 另_{一九}

叨_{一九} 只_{一九} 叫_{一九} 召_{一九} 叭_{一九}

叮_{一九} 可_{一九} 台_{一九} 叱_{一九} 史_{一九}

右_{一九} 𠂔_{一九} 𠂔_{一九} 叶_{一九} 号_{一九}

司_{一九} 同_{一九} 回_{一九} 囚_{一九} 四_{一九}

外_{一九} 央_{一九} 𠂔_{一九} 失_{一九} 𠂔_{一九}

奴_{一九} 孕_{一九} 宁_{一九} 宀_{一九} 它_{一九}

宀_{一九} 𠂔_{一九} 尔_{一九} 𠂔_{一九} 尼_{一九}

左_{一九} 巧_{一九} 巨_{一九} 目_{一九} 市_{一九}

布_{一九} 平_{一九} 幼_{一九} 𠂔_{一九} 𠂔_{一九}

𠂔_{一九} 式_{一九} 弗_{一九} 弘_{一九} 必_{一九}

忉_{一九} 戊_{一九} 𠂔_{一九} 𠂔_{一九} 𠂔_{一九}

𠂔_{一九} 打_{一九} 𠂔_{一九} 𠂔_{一九} 𠂔_{一九}

未_{五七} 末_{六七} 本_{七七} 札_{九七} 朮_{九七}
 正_{六七} 夕_{三六} 母_{七九} 氏_{八九} 民_{八九}
 永_{四八} 冰_{五八} 汁_{六八} 友_{八九} 犯_{八九}
 由_{九七} 甲_{九七} 申_{九七} 迂_{八四} 防_{七六}

六 畫

竹_{八二} 米_{二四} 糸_{二五} 缶_{六二} 网_{六二}
 羊_{六二} 羽_{七五} 老_{八二} 而_{八五} 耒_{八六}
 耳_{八二} 聿_{九二} 肉_{九二} 臣_{九三} 自_{九三}
 至_{五三} 白_{七三} 舌_{三三} 舛_{三三} 舟_{三三}
 艮_{三三} 色_{四三} 艸_{四三} 虍_{四三} 虫_{四三}
 血_{三三} 行_{三三} 衣_{三三} 西_{五三} 丞_{五九}
 兩_{三九} 尗_{三九} 互_{三九} 交_{六九} 亥_{七二}
 亦_{七二} 飯_{八五} 仰_{八五} 仇_{八六} 件_{八六}
 价_{八六} 任_{八六} 企_{八七} 伉_{八七} 伍_{八七}

伎_{八七} 伏_{八八} 伐_{八八} 休_{八九} 倅_{八九}
 役_{八九} 充_{六三} 兌_{六三} 兆_{六三} 兇_{七三}
 先_{七三} 光_{九三} 全_{五五} 共_{五五} 再_{六六}
 冰_{四六} 氐_{四六} 冲_{四六} 决_{四六} 風_{一六}
 風_{九六} 刎_{六七} 刑_{六七} 刳_{七七} 劓_{七七}
 刖_{七七} 列_{七七} 劣_{六九} 劓_{六九} 劓_{六九}
 匈_{六三} 匠_{〇三} 匡_{〇三} 尗_{九三} 冊_{九三}
 卉_{九三} 卮_{九三} 印_{五三} 危_{六三} 吁_{六四}
 吃_{六四} 各_{六四} 合_{六四} 吉_{七四} 吊_{八四}
 吋_{八四} 同_{八四} 名_{〇五} 后_{一五} 吏_{二五}
 吐_{二五} 向_{二五} 吒_{二五} 回_{二九} 因_{三九}
 回_{〇六} 在_{三〇} 圩_{三〇} 圪_{三〇} 圭_{三〇}
 圪_{四〇} 圪_{四〇} 地_{四〇} 夙_{〇三} 彡_{一三}
 多_{一三} 夷_{一三} 夸_{一三} 奸_{〇六} 好_{〇六}

灼_{一六} 如_{一六} 妃_{二六} 妄_{二六} 字_{〇六}
 存_{〇六} 孖_{〇六} 宅_{六六} 宇_{六六} 守_{六六}
 安_{七六} 享_{九六} 寺_{二四} 尖_{一四} 当_{一四}
 尽_{五三} 州_{四四} 帆_{二五} 年_{二六} 并_{三六}
 庄_{八六} 异_{〇八} 式_{一八} 式_{一八} 弛_{四八}
 弟_{四四} 徇_{四四} 忤_{三三} 忤_{三三} 忙_{五五}
 戊_{五五} 戌_{五五} 戎_{五五} 托_{七七} 扛_{七七}
 扞_{七七} 拖_{七七} 扣_{七七} 扞_{七七} 扞_{七七}
 挖_{八七} 收_{七三} 攷_{八三} 旨_{六六} 早_{六六}
 旬_{四六} 旭_{五六} 曲_{九六} 史_{〇六} 曳_{〇六}
 有_{七六} 朱_{九六} 朴_{〇七} 朵_{〇七} 朶_{〇七}
 机_{七二} 朽_{一七} 束_{一七} 杌_{一七} 杌_{一七}
 次_{九六} 此_{八七} 殂_{三六} 死_{七六} 求_{八〇}
 汚_{七〇} 汗_{七〇} 汝_{七〇} 永_{八〇} 江_{八〇}